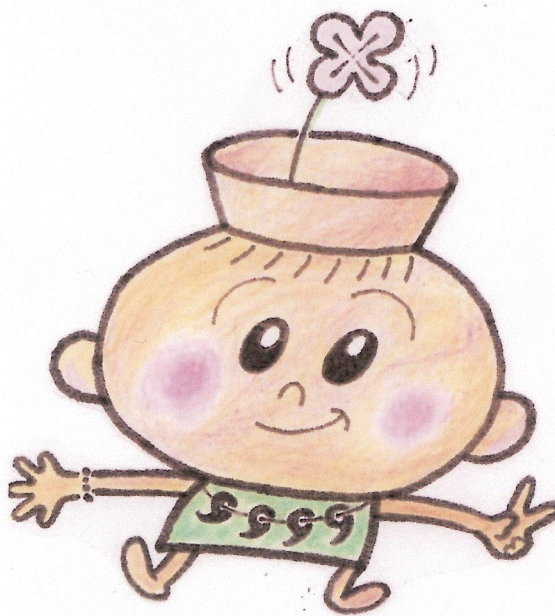


☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆紙芝居☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

スエちゃんの牛頸むかし話

あらためてのご案内



ぼく牛頸区のキャラクター「スエちゃん」です

【紙芝居】 スエちゃんのお牛頸むかし話

あらためてのご案内



皆様には日頃のご活躍大変お疲れさまです。

昨年秋に、表記・紙芝居のご案内を差し上げました所、大変ご好評をいただいて13回も上演を致しました。現在予定の制作が一段落しましたので、あらためて上演お願いのご案内をお送りします。宜しくお願い致します。

●対象

当初は小学校4～6年生を対象として制作しましたが、予想外に大人の方々に大うけしまして、例えば福祉行事の一環として上演することも多々ございました。

●上演時間と対象人数

一話 約15～20分 解説も含みます。

人数は 20～40名 が見聞きしやすいです。

●話の概要

史実編・・・牛頸地区に残る歴史的史実、伝承・・・4篇

民話編・・・牛頸地区に伝わる民話・・・7編

現在・合計11編

※イラストレーション、地図などで詳しい解説、用語説明をします。また、ご要望によっては、牛頸の歴史・史蹟・習俗・昔遊びなどもお話いたします。

●企画・台本制作

竹田 準（史実編は大野城市の「ふるさと文化財課」に目を通して頂きました。

民話編は雑餉隈の郷土史家・赤司岩雄先生のご許可を得ております）

●作画 富来琳（プクリン）こと木村幸子さん（大野城市）と竹田 準

●語り手 廣 信子さん（牛頸）

●後援 牛頸区

：：：：：上演料は頂いておりません：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

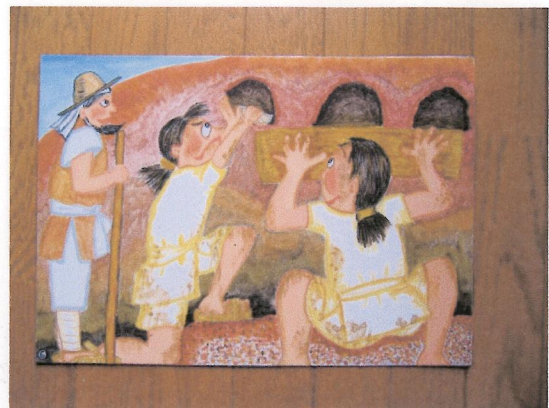
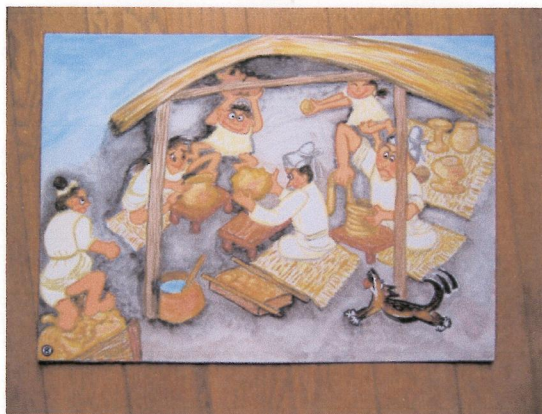
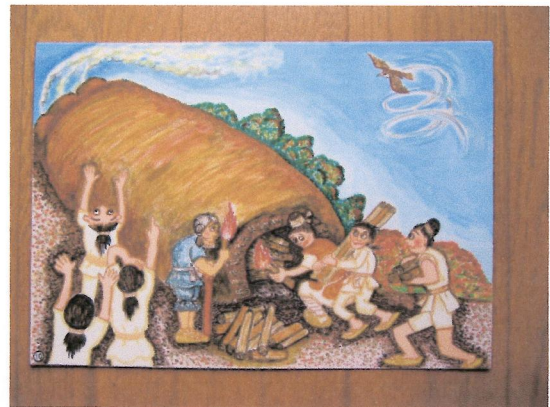
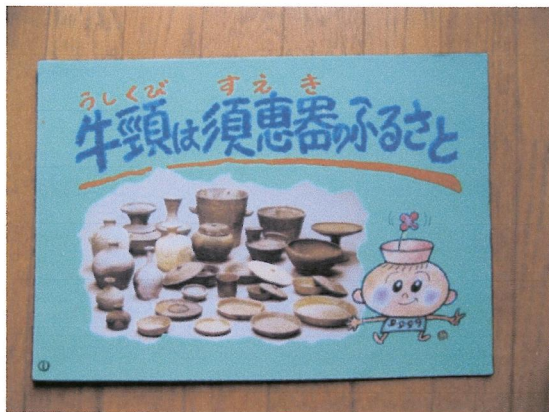
●紙芝居の内容をかいつまんでご紹介しますと・・・

史実編1 「牛頸は須恵器のふるさと」

台本・竹田 準

作画・木村幸子

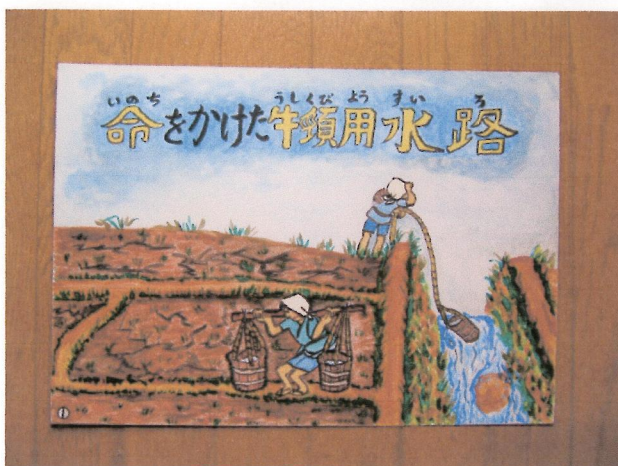
牛頸地区は6世紀半ば頃から9世紀半ば頃まで、日本三大須恵器窯跡群の一つとして大変栄えました。そして平成21年2月12日に「牛頸窯跡群」として国の史跡に指定されました。・・・お話は朝鮮半島から渡来した須恵器づくりの技術者の指導で、山に窯を築き、須恵器が完成するまでの感動のお話です。



史実編2 「命をかけた牛頸用水路」

台本・竹田 準 作画・木村幸子

上大利村、白木原村、春日村は川が低い所を流れていたなので田畑に水を引くことが出来ずに農民は長年困っていました。それを見かねた乙金村の大庄屋と白木原村の庄屋が一念発起して牛頸川から水を引くことにしました。工事は江戸時代の末から始まり、一旦中断しましたが明治10年春、工事を再開して延々2.8キロ、六つのため池をつないで念願の用水路が完成しました。しかし、尊い命が一つ失われました・・・



史実編 3 「ああ、壮烈、不動城」

台本・竹田 準 作画・木村幸子

戦国時代、平野神社の近くに不動城という小さなお城がありました。豊臣秀吉の九州征伐の時に秀吉の大軍に攻められて当時の城主・奈良原高政は奮戦むなしく全員討ち死にしました。時に 1587 年・・・



史実編 4 「牛頸村を救った次郎太」

台本・竹田 準 作画・木村幸子

江戸時代の中頃、全国的に起こった大飢饉で筑前国でも 10 万人近い餓死者が出ました。牛頸村の百姓たちも年貢を納めるところか食うものにも事欠いていた時、村に住んでいた都野次郎太という侍が、一命を賭けて年貢の減免を藩に直訴しました。村人はそれを引きとめました。・・・



民話編① 「天狗の鞍かけの松」

原作・赤司岩雄 台本と作画・竹田 準

牛頸村の入り口で村人を守る、お酒好きですが・いたずらも好きな愉快な天狗さんのお話です。牛頸に伝わる民話では一番有名です。さてさて、天狗さんは何をするのでしょうか？

※ただ今作画中です。



民話編② 「底なし沼の人柱」

原作・赤司岩雄 台本・竹田 準 作画・木村幸子

牛頸村のイガイ牟田池を通る道は何回工事をして、すぐに沼の中へ沈んでしまいます。今日も村人が大勢で道普請をしていると、巡礼姿の娘さんが通りかかって「どうか私を使ってください」と言うのです。娘は村人が止めるのも聞かずに・・・・



民話編③

「次郎太郎の松」

原作・赤司岩雄 台本・竹田 準 作画・木村幸子

牛頸村の次郎と太郎の兄弟は性格がまるで正反対でした。でも、隣村のお由という娘を二人とも好きになってしまいました。お由は優しい太郎を好きでしたが、弟の次郎からも「嫁になってくれ」と迫られて困っていました。ある晩の事・・・

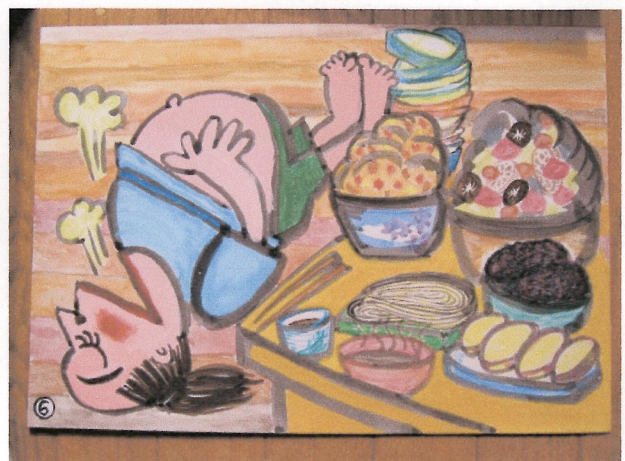


民話編④

「盆だご」

原作・赤司岩雄 台本・竹田 準 作画・小村幸子

牛頸村の与吉はお盆がやって来る前に、お母さんのお墓まいりに行きました。里のおばあちゃんは大層喜んでご馳走を作ってもてなしました。その中に与吉が初めて食べたとても美味しいお団子がありました。与吉は家に帰ってからお嫁さんにそのお団子を作ってもらおうと大急ぎで帰って来ましたが・・・



民話編⑤ 「沼からはこばれたキセル」

原作・赤司岩雄 台本・竹田準 作画・木村幸子

ある日のこと山田村のお百姓さんが牛を連れて、牛頸村のイガイ牟田池へマグサ刈りにやって来ました。仕事が終わって一服して立ち上がろうとすると、大事にしていたキセルを沼へ落してしまいました。お百姓さんは消えてしまったキセルをあきらめて家に帰りましたが、ある日井戸さらえをしていると・・・



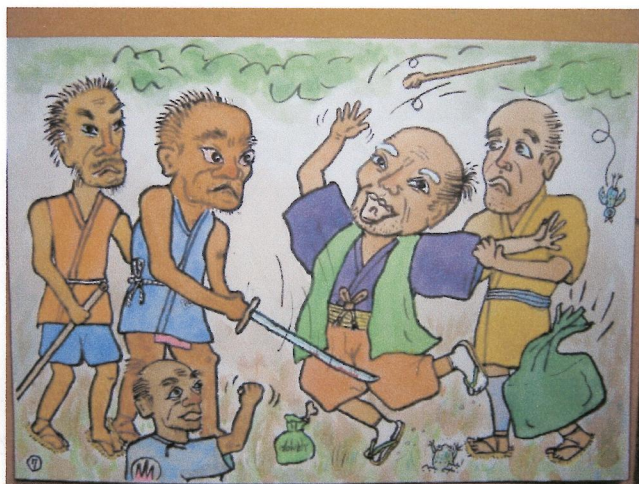
民話編⑥ 「深さをはかれない底なし沼」

原作・赤司岩雄 台本・竹田 準 作画・木村幸子

牛頸村の伊三郎は天狗さんに「イガイ牟田池はとてつもない底なし沼で、その深さは測りようがない」と聞いて「よし、いっちょ測ってみようか」と思って、竹のホコを 100 本も作って沼へ測りに行きましたが、なんとなんと・・・



牛頸村と水城村の境の平田峠には、通行人から金や物をうばう山賊がいて、人を切った血刀を洗う池の水はいつも赤い色をしていました。山賊たちは今日もあるお爺さんから沢山のお金を奪って喜んでいました。・ ・ ・ そんなある日、峠を越えた所から、娘さんの「助けてーっ！」という声がしました。山賊らが駆けつけてみると・ ・ ・



※この話は「そういう池がある」という言い伝えだけがあって、お話としてはありません。
ですから、この紙芝居は全くの創作です。

- 以上のお話のほかに「平野神社」「古代山城・大野城」「大宰府を守る水城」を考えていますが、これの台本を作る、絵を描く・・となると狂気の沙汰的になりそうで、いまは構想に明け暮れ、悩んでいる所です。期待せずに待機しててください。
- とんでもないことを始めたもんだ、と後悔の念に駆られること一頻りなんですが、上演してみても皆様の声（好評！）を耳にすると「ああ、作って良かったなあ、役に立っているんだなあ」と思うのは私の思い上がりでしょうか？
- 最後で恐縮ですが、原作の赤司先生、作画の木村さん、語り手の廣さんに大きな感謝の思いを持っています。

……………先ずはお呼びのほど宜しくお願い申し上げます。……………

2012 年 5 月吉日